



# 日本獣医師会学会関係情報



日本産業動物獣医学会・日本小動物獣医学会・日本獣医公衆衛生学会

----- 日本獣医師会学会からのお知らせ -----

## 平成23年度 日本獣医師会 獣医学術学会年次大会（北海道）

期間：平成24年2月3日(金)～5日(日)

会場：札幌コンベンションセンター

### ☆平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）における発表演題の募集について

平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）では、発表演題（一般口演、研究報告、地区学会長賞受賞講演）を募集します。

募集内容等は以下のとおりですので、奮ってお申し込みください。

#### ○募集区分：

##### (1) 一般口演

・日本学術会議の協力学術研究団体が主催する学会等において発表されていない未発表の演題を募集します。

・発表時間 ……………10分（発表7分，質疑3分）

・抄録（講演要旨）本文 ……………1,000字以内

##### (2) 研究報告

・日本学術会議の協力学術研究団体が主催する学会等において既に発表された既発表の演題を募集します（各地区学会において発表された演題は研究報告となります。）

・発表時間 ……………10分（発表7分，質疑3分）

・抄録（講演要旨）本文 ……………1,000字以内

##### (3) 地区学会長賞受賞講演

・平成23年度獣医学術地区学会長賞を受賞された演題を募集します。

・発表時間 ……………12分（発表8分，質疑4分）

・抄録（講演要旨）本文 ……………2,000字以内

※地区学会長賞受賞講演の中から学会ごとに優秀な演題1題を選考して、平成23年度の日本獣医師会獣医学術賞「獣医学術学会賞」（本賞及び副賞として研究奨励金）を授与します。

※地区学会長賞受賞講演の講演者（発表者）の参加登録料については、学術奨励の関係から免除とします（各演題発表者1名に限ります。）。

#### ○演題申込方法：

原則としてインターネットからの申し込みとします。「平成23年度学会年次大会(北海道)演題申込用ホームページ (<http://jvma2012.umin.jp/>)」の記載に従い申し込みを行ってください。

また、インターネットを利用しない演題申し込みも可能ですので、希望される際は日本獣医師会事務局・学会担当 (E-mail : jvma-gakkai@umin.net) までお問い合わせください。

- (1) 演題申込用HP (<http://jvma2012.umin.jp/>) の「演題申込」を選択し、リンクしている「演題申込画面」から指示に従って入力して下さい。
- (2) 演題を申し込み際には、抄録（講演要旨）の登録が必要になります。抄録本文はあらかじめワープロソフト等で作成しておき、コピー・ペーストで貼り付けることをお勧めします。申し込みが完了すると、折り返し受け付けた旨のメールが申込者に届きますので必ずご確認ください（メールが届かない場合、申し込みが完了していない恐れがあります。）。
- (3) 抄録（講演要旨）に掲載可能な研究者数の上限は6名（発表者含む）です。
- (4) 登録が完了した抄録は、修正受付期間内であれば登録番号とパスワードを入力することにより修正が可能です。
- (5) 講演時間や講演順等のプログラムは、決定次第、演題申込用HP上に公開します（11月下旬予定）。発表申込者は、発表日時、会場等に関する情報を演題申込

用HPから入手してください。

- (6) 演題の申し込みと学会年次大会の参加登録とは異なります。発表者は演題の申し込みとは別途、必ず大会への参加登録の申し込みを行ってください。また、大会参加登録の方法については、平成23年度日本獣医師会獣医学術学会年次大会（北海道）広報用パンフレット（2nd Announcement）に掲載する予定です（本誌に同封しました）。

○募集期間：平成23年7月20日(水)～

10月31日(月) 17:00まで

（上記募集期間後の地区学会長賞受賞講演の申し込みについては事務局まで直接お問い合わせください。）

○発表様式等：

- (1) 発表様式は、パソコンを用いた液晶プロジェクターを使用する発表とします。
- (2) 動画をご使用いただけますが、パソコンを持参いただく等の条件があります（詳細が決定次第、演題申込用HPに掲載します。）。
- (3) 演題発表におけるデータフォーマットについては、プログラム及び演題申込用HPに後日掲載しますので、発表者は必ず事前登録のうえご確認下さい。

---

## 日本獣医師会学会学術誌投稿原稿の募集について

### 新たな投稿規程に基づく投稿をお待ちしています。

学会では、構成獣医師をはじめ、獣医学系大学の学生、獣医学関係分野の研究者等が学術の研究の発表をされる場として、学会誌への投稿を広く募集しています。

獣医学術学会年次大会及び獣医学術地区学会で一般口演された研究発表等も是非ともご投稿いただき、誌面での発表をお願いします。

なお、投稿を希望される方は、新たに制定された「日本獣医師会学会学術誌投稿規程」に基づき、変更となる次の点に留意してご投稿くださいますようお願い申し上げます。

# 日本獣医師会学会学術誌投稿の手引き

(平成23年4月1日 日本獣医師会)

## 1 目的

本手引きは、日本獣医師会学会学術誌投稿規程（以下「投稿規程」）に則り投稿原稿の審査や編集が円滑に行われることを目的に、投稿規程に記載のない、一般的な事項、編集において必要な事項、著者が見落としやすい事項等を示したものである。

## 2 投稿資格及び条件関連

- (1) 筆頭著者は、日本獣医師会構成獣医師もしくは賛助会員（個人に限る）でなければならない。それ以外の者が筆頭著者の場合は、投稿料を徴収する（投稿時審査料10,000円、採用時掲載料50,000円を納入する）。ただし、編集委員会が認めた者については、この限りでない。
- (2) 発表者は、原則として8名以内とし、研究材料提供等については、謝辞で記載する。
- (3) 投稿原稿は、獣医学が扱う臨床、動物衛生、食品衛生、環境衛生、人と動物の関係、獣医学教育、動物用医薬品・機器等を内容とする、獣医学術の振興・普及及び調査研究の推進に関する学術論文等を範囲とし、委員会において、掲載に相応しい学術分野を指定する。
- (4) 他の学会誌等に投稿中、もしくは発表した論文等は受け付けない。なお、口頭による発表はこの限りでない。

## 3 投稿要領関連

- (1) 投稿（初回）の際は、所要事項を記載し、著者全員の署名した投稿票を必ず添付する。
- (2) 投稿原稿は、4部を提出する。
- (3) 原稿は、A4判用紙を使用し、1頁（片面）を25字×24行の横書きで、明朝体を用いページを付す。
- (4) 原稿の枚数は、表題、和文要約、英文要約（SUMMARY）、本文、図（写真を含む）・表等すべてを含めた枚数で、投稿区分の規定枚数は、別表のとおりとする。
- (5) 特に図、表は、本文との兼合い（枚数、印刷時の大きさ）を十分考慮し、規定枚数内に納める。
- (6) 以上の事項を逸脱した原稿については、審査以前に再提出を依頼する。

## 【別表】掲載区分と投稿原稿の制限枚数及び刷り上り頁枚数

掲載区分	投稿原稿制限枚数 A4判ワープロ等 (25字×24行)	刷り上り頁数
総説	24枚	6頁以内
原著	20枚	5頁以内
短報	16枚	4頁以内
技術講座	16枚	4頁以内
資料	8枚	2頁以内

## 4 執筆要領関連（原著及び短報）

### (1) 用語：

- ア 動植物名は、原則として漢字を使用する。ただし、一般的に使用されているものに限り（例：人、犬、猫、牛、豚、鶏、馬、羊等）、それ以外のものはカタカナで表示する。
- イ 薬品名は、原則として一般名もしくは局方名を使用し、カタカナで記載する。また、機器名は原則として一般に使用される名称を和文で表示する。
- ウ 本文中に一般名等で記載した薬品、機器等の商品（製品）名及び社名等は、一般名称の直後に括弧内で記載することができる（商品（製品）名、社名、都道府県名の順／例：ニチジュウワクチン、日獣製薬(株)、東京）。

### (2) 表紙（第1頁）：

- ア 最上段左側に部門名、希望投稿区分及び「新規」（新規投稿原稿の場合）あるいは「継続」（継続審査原稿の場合）の表示を赤字で明記する。
- イ 次いで、表題、著者名、所属機関名（大学は学部名、都道府県勤務は支所名（本所は部名）、までとし、「〇〇動物病院」⇒「〇〇県 開業」（県名は所属獣医師会または所在地名）、「株式会社」⇒「(株)」、「社団法人」⇒「(社)」、「財団法人」⇒「(財)」、「独立行政法人」⇒「(独)」とする。）及び所在地住所（郵便番号を含む。併せて、実際の動物病院名も記す。）を和文で記載する。
- ウ 表題は原則として副題、括弧、略号、「～について」、「～に関して」等は付けない。
- エ 最下段には連絡責任者の所属（大学は教室名、都道府県勤務は係名まで、動物病院等は、実際の名称

を記載), 住所, 電話番号 (ファックス番号), メールアドレスを記入し, 別刷を希望する場合には必要部数を赤字で明記する。

オ 表題が28字を超える場合には, 28字以内の柱(ランニングヘッド)を記入する。

### (3) 和文要約 (第2頁):

字数は360字以内とし, 要約の最下段には, 原著では5語以内, 短報では3語以内の日本語のキーワードを英文のKey wordsに対応する順で記載する。

### (4) 英文SUMMARY (第3頁):

ア 英文の表題, 著者名, 第1著者の所属機関名, 所在地住所(郵便番号を含む), SUMMARY及びKey wordsを記載する。

イ SUMMARYは, 250ワード以内とし, 行間を広く空けてタイプする。

ウ SUMMARYはなるべく和文要約に対応した記載にする。

エ Key wordsは, SUMMARYの最下段にABC順で記載する。

### (5) 本文 (第4頁以降):

ア 原則として, ①緒言(見出しは付けない), ②材料及び方法, ③成績, ④考察, ⑤引用文献の項目に区分して記述し, 数字を用いて項目分けしない。(ただし, 短報では必ずしも, この区分で記述する必要はない)。

イ 実験動物等の取り扱いについては, 所属研究機関の動物実験ガイドライン(指針)に沿って動物に苦痛を与えないように実験を行った(または動物実験委員会の許可を得て実験を行った)旨を明記した上で, 動物の苦痛を和らげる方法について具体的に記述し, 当該動物を使用して実験を行う必要性と意義を説明し, 併せて動物の入手方法及び飼育状況を具体的に記載する。

ウ 図(写真)・表

(ア) 図(イラストレーションを含む)は, 黒インクでA4版の白紙または青色方眼紙を用いて, 表題を付け, 原図から直接製版できるものとする。

(イ) 表は, 縦罫線を入れない。

(ウ) 写真は, 白黒でコントラストの明瞭なもの(カラーの際はモノクロ印刷でも明瞭なもの)とし, 表題と簡単な説明を付け, 原寸印刷が可能ないように必要部分を横7.8cm, 縦6.0cmまたは横

15.5cm, 縦10.0cmに整形して台紙に貼付する(全体を糊付けするのではなく, コーナーのみを糊付けする)。なお, デジタル画像を用いる際は, 明瞭な印刷ができるように光沢紙等の専用紙を用いる。

(エ) 写真には図と同様に一連の番号を付け, 初回投稿時には4部すべての原稿にオリジナルを添付する。

(オ) 図及び表は, 1点を1枚の台紙に貼付し(デジタル画像で光沢紙等を用いる際も同様), 写真とともに原稿の最後にまとめて添付する。さらに, それらの挿入位置を本文の右欄外に赤字で明記する。

エ 引用文献

(ア) 引用できる文献は, 学会誌, 専門的学術誌あるいは専門書とし, 学会抄録, 講演会テキスト, レフリー制度のない商業雑誌の他, 大学, 研究機関, 団体の年報・報告書・会報, 関係省庁の法令・事業報告, 辞書・辞典等, また, ホームページは原則として引用できない。

(イ) 本文中では, 著者名の直後等, 引用箇所に[1, 2-5]のように記載する。

(ウ) 文末に, 本文中最初に引用された順に配列した引用文献リストをおく。①雑誌の場合は, 著者名(全員列記), 論文のタイトル名, 誌名, 巻, 頁(1箇所のみ), 年次(カッコ書き)とする。②単行本の場合は, 著者(著者が複数の場合は, 引用した著者のみ), 記事のタイトル名, 書籍名, 訳者名(1名のみ記載し, その他は和文では「他」, 英文では「et al」とする), 編者名, 版, 頁, 発行者, 発行地, 年次(カッコ書き)とする。ただし, 著者名がない際は, 編者がいる際は編者名を, その他は, 学会, 研究会等の名称を記載する。

(エ) 和文誌名は原則として省略しない。ただし, 慣例的に使用されているものはこの限りではない(例: 日獣会誌, 日獣誌など)。

(オ) 欧文誌名の省略は, Journal Title Abbreviationsによる。指定のないものは省略しない。

#### 【雑誌の場合】

- [1] 青山太郎, 青山花子, 赤坂次郎: 子牛の開放性骨折の1例, 日獣会誌, 45, 115-120 (1992)
- [2] 青山太郎, 青山花子, 江戸三郎, 東京 愛: 犬のレプトスピラ症の抗原検出法, 日獣誌, 30, 135-138 (1992)

- [3] Aoyama T, Aoyama H : The welfare of animals, Jpn J Vet Sci, 54, 120-124 (1989)
- [4] Aoyama T, Aoyama H, Kanda J : A survey of heavy-metal contamination in imported seafood, J Vet Med Sci, 54, 126-130 (1992)
- [5] Aoyama T, Aoyama H, Suzuki K, Tanaka S, Takahashi Y : Pathogenicity of the aino virus in japan, Am J Vet Res, 53, 155-160 (1992)
- 【単行本の場合】**
- [1] 神田一郎 : マイコプラズマ, 獣医微生物学, 江戸三郎編, 第1版, 100-103, 青山堂出版, 東京 (1992)
- [2] Smith J : マイコトキシン中毒, 選択毒性, 赤坂次郎訳, 250, 学会出版センター, 東京 (1989)
- [3] Roitt IM : Immunophoresis, Immunology, Fred OG, et al eds, 2nd ed, 150-160, Grower Med Publ, London (1989)